

編集後記

同文書院記念報第20号は、ご覧のように従来より厚いものになった。これは文部科学省によるオープン・リサーチ・センター事業に対する補助金が、昨年度をもって予定の期間を終了したため、従来発行していた『オープン・リサーチ・センター年報』と『愛知大学史研究』を、記念報に統合したことによる。

2011年は、辛亥革命百周年の年であった。東亜同文会、東亜同文書院関係者の中には、山田良政、純三郎兄弟をはじめとして辛亥革命の原動力となった中国同盟会の指導者孫文の支援者が多くいた。本センターでは、11月に国際シンポジウム「辛亥革命・孫文・東亜同文会」を行ったが、本号では、当日の報告者の報告と討論の内容を採録した。報告の中では、横山宏章氏が辛亥革命後、議会制民主主義の発展を阻止したという観点からみると、袁世凱と、議会内闘争ではなく武装蜂起を行い第二革命を起こした孫文は同罪であるという刺激的な指摘をし、藤井昇三氏との間で白熱した議論が行われた。ご多忙の中、本シンポジウムで御報告を引き受けていただいた先生方に改めて感謝したい。

東亜同文書院大学の1945年入学生は、上海に行けず、富山市に最後の校舎である呉羽分校を開学(7月～11月)した。そのご縁もあって、昨年9月、富山市で東亜同文書院大学の展示会と講演会をお二人の東亜同文書院大学の同窓を迎えて行い、その内容を採録した。講演会では多くの参加者がつめかけ盛況であった。

論文では、藤田佳久前東亜同文書院大学記念センター長をはじめとして、本センター関係者によって、当時中国人学生が入学した東亜同文書院中華学生部、および山田良政が入学した水産伝習所および当時の水産政策、ならびに林毅陸愛大初代学長は慶應義塾大学の塾長も務められており、その関係で慶應義塾福澤センターへの訪問記を掲載した。

また第18回東亜同文書院記念基金会による記念賞は、5年間のオープン・リサーチ・センター事業での功績と東亜同文書院についての『中日新聞』夕刊への連載により藤田佳久前センター長、『孫文を支えた日本人：山田良政・純三郎兄弟』の出版により武井義和本学非常勤講師が受賞されたが、小崎昌業氏と中島寛司氏の推薦の言葉と受賞挨拶を掲載した。

また本センターの発足についての経過について山下輝夫氏から寄稿いただいた。

2012年3月

東亜同文書院大学記念センター長 馬場 毅